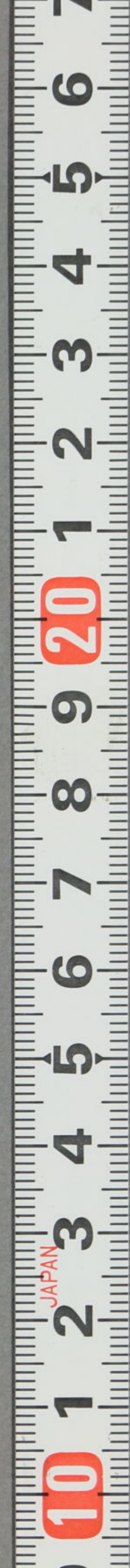
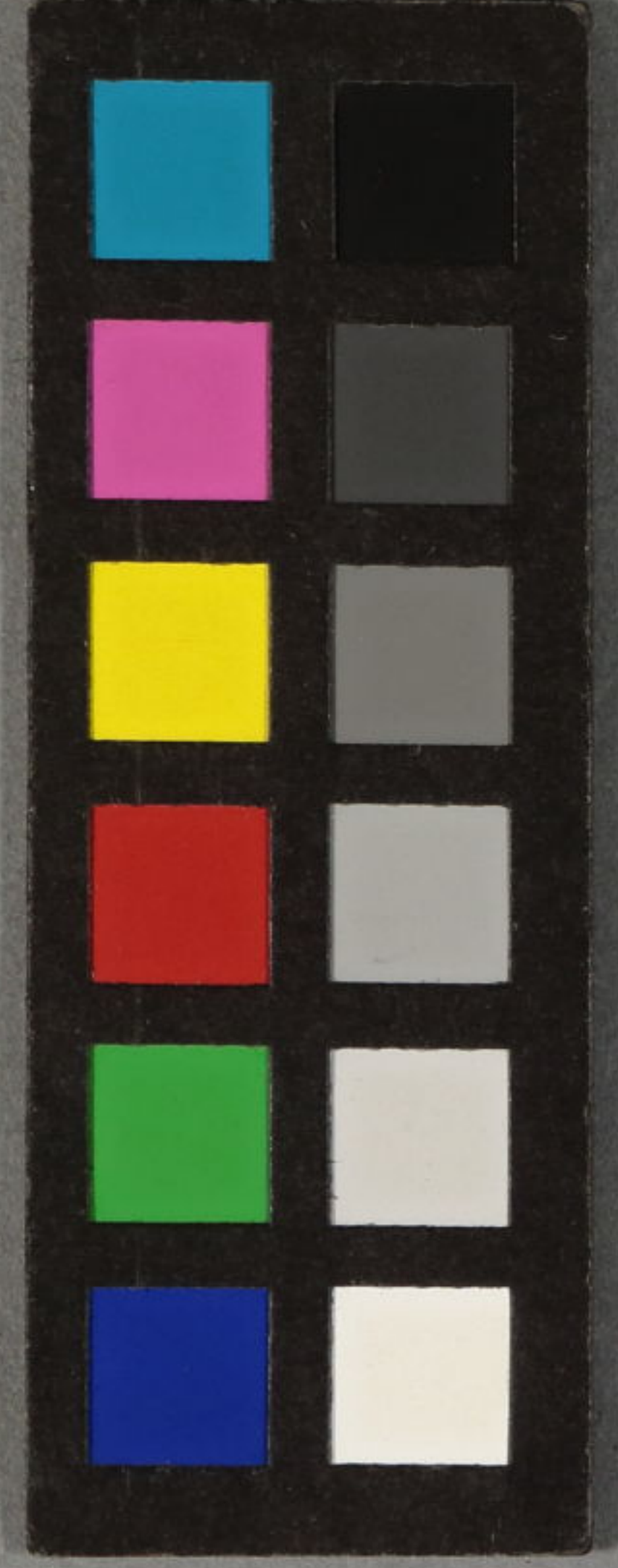


山中運氣指南

大



年中運氣指南

三海の成り

三島抄

年中運氣指南序

秋夜文被上雲に遊びを談的酒井

多量の書師の曰五運の氣入の法を撰

医家のつとえのいふ人等これと辨

でも歳中の風雨寒熱穀菜菓木の

多少盛衰を察して益害を辨

づる者欲も請わ字の用へ運氣の軸

を成るを人として感を流道を知



金額て去りし月札子家ノ筆紙月標ノ平
中運の指南の一巻ヲ書寫ト是
敢ク博識の賢人ヲ求ヒ惟童蒙ノ
戯玩トスルト耳

時正徳四甲午年又と室日

耕筆於攝生堂

筆洛 隱居同衾為行一抱子



年中運氣指南

目錄

- 歳ノ運氣繰用の事
- 年に異名有事
- 年の上中下吉凶の事
- 五運各主氣象の事
- 客氣立様の事 並ニ主客の圖
- 運氣の一年の事
- 年中の運氣の大槩を知事



○主客六氣各主氣象の事

○主客の六氣上下の事

○主れ六氣の事

○年の十二支と以年中の氣とみる事

並ニ年中の五穀善悪の事
付り毎年の雨風を知事

○十干みいで年の氣と見事

○年中の雨風善悪と占事

○正月朔日の雨風と以年中の善悪と占事

○旱暵に雨と祈法の事

○酉の日は風有の事

○二百十日二百九日放生會は風有の事

○八十八夜名残の霜の事

○半夏夏生の事 並此日毒降俗説の事

○入梅の事 並栗花落の俗説の事

○二季の彼岸の事

○十方暮の事 付天一天上

○八專の事 並八專は災にぞるの事
付癸亥の夕の事

○土用の事 並土用節日の事
付土用に災にぞるの事

- 塩れ満すの事並知死期の事
付毎日の塩指張時刻の事
- 人の生死知死期さるる者有れ事
- 二十四氣七十二候の事
- 冬至の事並に亥の子の事
- 追加

目録終

年中運氣指南

洛下

法橋

岡本爲竹一抱子

撰

○歳運氣縁用之事

凡毎年トシトシの運氣と見ミにハ先其年トシ中の主氣と客氣とを組合あはせ考かぐ。寒熱風雨と察さし五段五涼ゴリョウ鳥獸等の多少と候あはれこと也其主氣トシノナリのりを春温ハルノヒに夏暑ナツノヒ秋涼アキノヒ冬寒フユノヒ四季を常トシトシからしめぬ氣キと行なふ者也論人トシノヒト乃家居トシノヒトを亭主トシノヒトの如ごとし。亭主トシノヒトハ常トシトシ同トシトシとして爰トシトシぬ者也故トシトシに其年トシトシといふこと

癸と考く年中の寒熱風雨の物をも多岐に
毛頭違わぬ事あり也

○年異名有事

己ハ土運 太過也此と敦阜年と云雨濕の盛なり
不及也此と早監年と云雨濕の少なり

庚ハ金運 太過也此と聖成年と云冷燥の盛なり
不及也此と從革年と云冷燥の少なり

辛ハ水運 太過也此と流行年と云寒水の盛なり
不及也此と涸流年と云寒水の少なり

壬ハ木運 太過也此と發生年と云風温の盛也
不及也此と未交和年と云風温の少也

癸ハ火運 太過也此と赫曦年と云暑熱の盛也
不及也此と伏明年と云暑熱の少也

○右の外に平氣といふあり此は後を以て
年の氣と見篇を以て考知るも太過は
不及に於て平等和調の年也

○木運 敷和年と云風温の平なり也
○火運 升明年と云暑熱の平なり也

○土運 素氣ハ備化年と云雨湿ふくなる年なり也
○金運 審平年と云冷燥ひやの平なり也
○水運 順静年と云寒水ひやみづの平なり也

○年の上中下吉凶の事

甲子午ハ中ちゆうの下年也甲戌けつハ中ちゆうの上年也
子午しごハ下げの凶年也丙辰ひのハ中ちゆうの年也
寅申いんしんハ下げの凶年也戊辰つちハ中ちゆうの年也
年の中也戊辰つち上かみと吉きちの年也
庚辰かうハ下げの凶年也庚辰かうハ下げの凶年也
吉きちなり
也○土運ハ中ちゆうの上年也壬子にんしハ下げの凶年也壬辰にんしんハ中ちゆうの年也
ハ中ちゆうの下年也○乙卯えいぼうハ上かみの吉きちの年也
吉きちの年也乙卯えいぼうハ上かみの吉きちの年也
也丁酉ていゆうハ下げの凶年也丁卯ていぼうハ中ちゆうの年也
也丁卯ていぼうハ下げの凶年也丁卯ていぼうハ中ちゆうの年也
ハ下げの凶年也己卯けいぼうハ中ちゆうの年也己卯けいぼうハ上かみの吉きちの年也
年也○辛卯しんぼうハ中ちゆうの年也辛卯しんぼうハ上かみの吉きちの年也
也○癸卯みづのぼハ上かみの吉きちの年也癸卯みづのぼハ中ちゆうの年也
ハ上かみの吉きちの年なり

○五運各主氣象之事

○土運化ハ湿雲雨万物を化育て張ちやうと茂さかつと実み

いづれ満く平うに土用どようの氣象きさうと致也いたす黄色きいろ辛味からみ酸味すっぱみ燥あせ一切いっけいの肉厚物にくあつもの倮虫裸虫ととおとおぼふ也なりのおと倮虫裸虫運うんの太過たいう

不及ふたぎ小從せうじゆ之此こゝに多た少せうの分わわはるなり

○金運きんうんハ燥あせ冷曇ひやうどん清きよと霧露きりろ万物ばんぶつと枯涸かこくて舒ゆると

季きと茂さからむ秋あき氣象きさうと致いたすと也なり白色しろく半味はんみ糯桃ぬたう一切いっけい

の穀堅物こくけんもの介甲けいこうの倮虫裸虫と主也しゆなり運うんハ太過たいう不及ふたぎ小從せうじゆて

此こゝより多た少せうの別わかいはるなり

○水運すいうんハ寒ひや凝雪ひやうせつ霜しも水みづ電でん雨あめ水類すいれい万物ばんぶつの肉藏にくざうて顯あらわ

是こゝと季きと冬ふゆの氣象きさうと致いたす也なり黑色くろく鹹味かんみ豆粟まめあし一切いっけい

の水氣すいけいのる物もの鱗うろこの倮虫裸虫と主也しゆなり運うんの太過たいう不及ふたぎに

從したがて此こゝに多た少せうのり

○木運もくうんハ風地かぜぢ地震ちゆん温和おんわ万物ばんぶつの発はたさ生なトと宋そう茂まう

つて舒ゆるに春はるハ氣象きさうと致いたす也なり麻李あし一切いっけいの中に

核かくの堅かたあはる物もの蒼色そうしき酸味すっぱみ毛けのる虫むしと主也しゆなり運うん

の太過たいう不及ふたぎに此こゝに多た少せうの別わかいはるなり

○火運かいうんハ暑熱しよねつ万物ばんぶつの榮蕃えいふんつ昌あきに夏なつの氣き

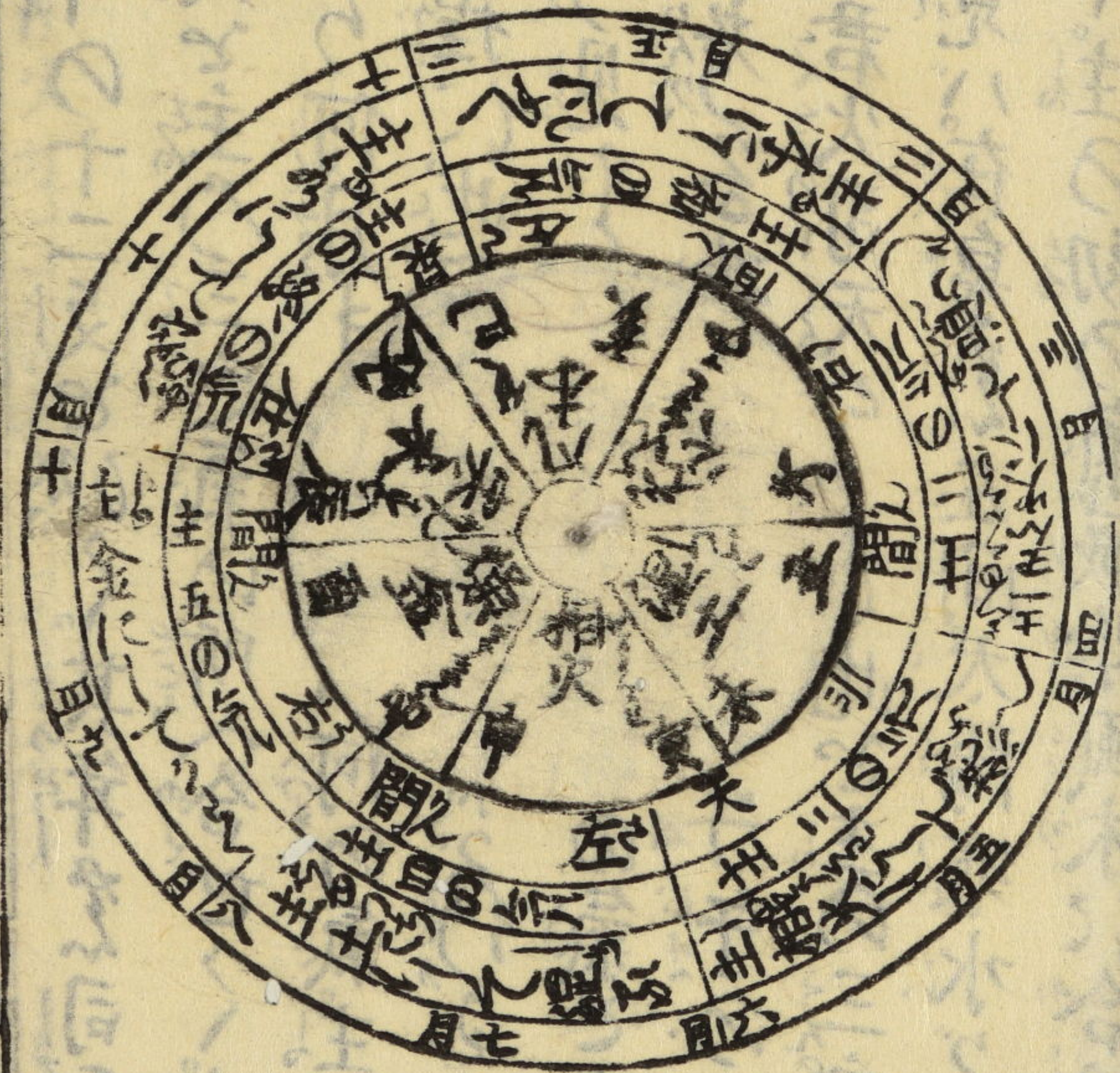
象さうと致いたすと也なり赤色せきしき苦味くみ麥杏ばくじやう一切いっけいの脉絡みやくらくの倮虫裸虫

類れい羽うの倮虫裸虫と主しゆるなり運うんハ太過たいう不及ふたぎに從したがて

此に多狀の別あり

○客氣立様之事

客氣ハ其年の十二支と決て司天在泉と
極く在泉の左間と初氣と一司天の右間と
二の氣と一司天と直小三の氣と一司天の
左間と四の氣と一在泉の右間と五の氣と
一在泉を直に終氣と丁なり



先其年の十二支と決り。其年を司天と定め。其司天と主の三之氣の所へ合せく。今年を何月より何月までと客ハ何の氣主ハ何の氣か主の程に此間ハ此の氣が行くより海とこと考見しとけり。屯角客の氣と主氣の取合と考ふる事あり。假令子午の年ハバ。少陰君火司天とて此と主の三之氣と合くと見バ。在泉ハ左間太陽寒水。初の氣と成り。主の初の氣秋陰風木に合ふ故と云

年十二月より。當年二月までの間。寒水と風木とが主の程に。寒風はよと候ふなり。初司天の右間厥陰風木。二の氣とあり。主の二の氣少陰君火に合ふ故。二月より四月までは。のるハ風木と君火とが主の程に。風と吹温けて。木も能生と候ふ也。初司天少陰君火。三の氣とあり。主の三の氣太陽相火に合ふ故。四月より六月までの間は。君火と相火と兩火が主の程。大暑熱行り。金石

も燥ほひせしに甚ふこと候ふ也。扱司天の左間太陰濕土の四の氣と成く。主の四の氣太陰濕土の合は故六月より八月まよくの間に濕土が雨合世主は程に湿つめ。大雨降天曇と候ふ也。扱在泉の右間少陽相火の五の氣とせり。主の五の氣陽明燥金に合は故八月より十月までの間ハ相火の燥金と制して主は程に此時秋となんとし猶炎暑て出木し榮と候ふ也。扱在泉陽明燥金の終の氣と成く。主の終の氣太陽寒水に合は故十月より十二月まよくの間に燥金と寒水とが主は程に金の燥氣と冷氣と水の寒氣とが行りしむ甚ふ寒冷のつこと候ふなり。毎年皆此例とみく候見ゆさ也。猶後の十二支に、年の氣と見の篇に年主客六氣の候は、撰記と考へ見ゆ。

の運氣一年之事

凡曆の一年ハ正月朔日より十二月大晦日ゆぐ三百五十四日三十七刻の一年なり。運氣の一

年ハ前の年の十二月の中大寒の日より復當年
の十二月の中大寒の日まゝ。三百六十五日二十
五刻の一年なり其故に十二月の中大寒の日か
らハ蚕来年の運氣と以て候ふ。と云ふなり凡そ
の六氣客の六氣離て數とハ十二氣かれども
主客兩氣宛合と一年と主は故一年三百六十
五日二十五刻と六段に分く主客の六氣が主
客也然ハ一段六十日八十七刻三十分宛也
假令主客の初の氣が年前十二月の中より當
年二月の中まで六十日八十七刻三十分と主
客の二の氣が二月の中より四月の中
と六十日八十七刻三十分と主は餘氣皆如此
の如く。主客の六氣相より一歳三百六十五
日二十五刻と總は也

○年中運氣の大槩と知事

凡年の客氣司天在泉ハ其年の十二月より
定は也運八年の十干より定は也其年の上中
下差と知にハ先其年の司天と上に建運

と中^{ちゆう}に建^た在^{ざい}泉^{せん}と下^かに建^たく。上^{かみ}中^{ちゆう}下^か三^{さん}段^{だん}の五^ご行^{ぎやう}
相生^{せいせい}相^あ剋^{こく}と考^{かん}ふし其^{その}年^{ねん}の德^{とく}の大^{だい}槩^{がい}と知^しべ
し。假^か令^{れい}甲^か子^し午^んの年^{ねん}かまじハ

此^こ年^{ねん}を總^{そう}く敦^{とん}阜^ふと号^{ごう}

○司^し天^{てん}坎^{かん}陰^{いん}君^{くん}火^か 運^{うん}土^ど太^{たい}過^か 在^{ざい}泉^{せん}陽^{やう}明^{めい}燥^{そう}金^{きん}

此^こ年^{ねん}司^し天^{てん}の火^かより運^{うん}の土^どと生^{せい}し運^{うん}の土^どより
亦^{また}在^{ざい}泉^{せん}の金^{きん}と生^{せい}し上^{かみ}中^{ちゆう}下^か皆^{みな}五^ご行^{ぎやう}の相^あ生^{せい}
亦^{また}在^{ざい}泉^{せん}の金^{きん}と生^{せい}し上^{かみ}中^{ちゆう}下^か皆^{みな}五^ご行^{ぎやう}の相^あ生^{せい}
亦^{また}在^{ざい}泉^{せん}の金^{きん}と生^{せい}し上^{かみ}中^{ちゆう}下^か皆^{みな}五^ご行^{ぎやう}の相^あ生^{せい}

土^どの盛^{せい}也^{なり}此^こに司^し天^{てん}の火^かより養^{やう}時^じハ土^ど氣^き強^{きやう}
進^{しん}て太^{たい}過^かに至^{いた}ふ故^{ゆゑ}に中^{ちゆう}の下^か年^{ねん}とこと夫^そ火^か
の氣^きハ熱^{ねつ}土^どの氣^きハ湿^{しつ}雨^う金^{きん}の氣^きハ冷^{れい}也^{なり}此^こ年^{ねん}
ハ土^どの太^{たい}過^かかまじハ湿^{しつ}つよ雨^うまけし此^こに
司^し天^{てん}君^{くん}火^かの熱^{ねつ}と加^かへて湿^{しつ}熱^{ねつ}盛^{せい}の年^{ねん}也^{なり}在^{ざい}
泉^{せん}ハ下^か半年^{はんねん}と主^{しゆ}は然^{ぜん}ハ此^こ年^{ねん}下^か半年^{はんねん}ハ陽^{やう}冷^{れい}つよ
しとことス土^ど太^{たい}過^かして亢^{かう}了^{りょう}水^{すい}に勝^{かち}時^じハ水^{すい}の子^し
の未^み起^{おこ}く母^ぼ土^どの爲^{ため}に怨^{おん}とは復^{ふく}と此^こと勝^{かち}復^{ふく}
といふなり其^{その}は復^{ふく}ハ下^か半年^{はんねん}に在^{ざい}然^{ぜん}ハ此^こ年^{ねん}雨^う

濕にゆくして下半年の比に大威の變るはべ
と事と知るの毎歲皆此例と決し其年の
吉凶大槩と候ひ其上に一歲六段の主客各行
ふ所の氣令と察し十干に属は運の氣と考
く。天地四季寒熱風雨五穀五菓五畜五虫五
色五味の多少盛衰等と候ふべし也。或問正
德四年甲午八月廿陰君火の司天土運の大過也。
故に濕熱にゆく雨多く降此濕土の勝也七月
上旬に風吹屋と損ハ州木と折此木氣の仕復
也然に復八月上旬中國に大風ぬ起り屢屋と
破り州木と摧さ河海河流く岸崩人と損
ふ者ハ何ぞや。曰初の二復弱して復し盡
されハ再勝再復と其再復や。初
復に倍と故に年と候者ハ此義の倍年
と知く復氣状くハ必と再復の甚さ
と察へとさりり。或又同勝復の氣ハ一歲の運
いのと有や。日獨運のと勝復の分ハ必と
一時一日の分ハ必と。況主客六氣の上にも

○太陰土の氣ハ濕雲雨万物と化育く長し
茂らせ實いつて能満しと致と也稷稷束
一切の肉厚物黄色甘味裸虫主也人無虫
陽明金の氣ハ燥冷曇く清し霧露万物は
枯涸く舒と季と茂と秋の氣象と舒と
也糯桃一切の穀堅物白色辛味介甲の虫
と主舒と

○太陽水の氣ハ寒凝雪霜氷雹雨水万物の
豆粟一切の水氣わら物黒色鹹味鱗の虫
と主舒と也以上の氣象ハ主の氣ハ客氣

○主客の六氣上下の事

凡主氣ハ地の属つ故に下は立客氣ハ
天の属つ故に上に位客氣ハ主氣の上
に加りりく行也此故に年中の氣化ハ客氣
の働が專に見え行くなりり大法客氣ハ
主氣ハ勝ハ順と主氣ハ客氣ハ勝ハ逆と
するなり此主客の氣ハ各勝復の事ハ有

しとこ知ぬまかつ

○主六氣之事

○主初の氣厥陰風木 前年の十一月の申より當年二月の中までとほり 此時風行し地下温いし木も萌芽し雪霜氷も次第にうすく解虫も見を出んごとし。春氣次第に顕は世俗よ小寒の氷が大寒に解とつあし此節の氣とつあるりの客の在泉左間の氣これと俱り重つこ加つて

○主の二の氣少陰君火 二月の中より四月の中までとまる也 此時和に温かり木末の枝葉も蕃つと花さし発春の氣專にひし萍も生ト蟻蟻鳴るりの客の司天右間の氣これと俱り重つこ加つこくそこなりふるり

○主の三の氣少陽相火 四月の中より六月の中までとまるなり 此時炎の如し甚し暑熱いつく木榮茂つと種ゆき苗く蟻生し廉角と解て夏の氣專にひし客の司天の氣これと

俱に重つて加つてく行ふなり

○主の四の氣太陰濕土 六月の中より八月の中まではとるなり

此時雲もよどし雨降蒸たてて溽暑し虫

生じ然ども夜露降間に涼風あつて快

く秋の氣見也○客の司天左間の氣を

俱に重つて加つてく行ふ也

○主の五の氣陽明燥金 八月の中より十月の中まではとるなり

此時涼しく万物皆燥枯凋霜降秋の氣

轉じり涼なり○客の在泉右間の氣を

俱に重つて加つてく行ふなり

○主の終の氣太陽寒水 十月の中より十二月の中まではとるなり

此時大寒氣終り雪霜雹降水氷つて虫

藏り冬の氣專に行りり○客の在泉

氣を重つて加つてく行ふなり

夫石の主氣ハ毎歲四時の常氣なりとるなり

者也然ども此上小毎年いりり所の客

氣が加ふ故に春夏の温熱なる處に特り

冷秋冬の冷寒ならん時に温るるを致

其外時なりぬ花さる実のつし或ハ時か
らの雹雪降或ハ大雨洪水大風大旱等の
變わは者ハ皆客氣と運との所行なり故
に年の氣と候者ハ主客六氣の組合せまる
所の働と五運の太過不及勝復の働とと詳
しく考見ぬま也

○年の十二支と以て年中の氣と見事

以下に建所の氣ハ客の六氣なり其
働ハ主客組合せまる所の氣令と知り

海に此に記所ハ十二年也と雖と

も此と以て千萬年と候とも同

し也

後の十干と以て繰所の五運も同事と

知らへ

▲子午年少陰君火の司天陽明燥金の在泉

也○此年上半年ハ熱し下半年ハ燥く雲
北に馳じりひ湿行り雨時に從て降寒熱
天地の間に持て人の病此よりして生じ上

半年ハ丹色の物盛に下半年ハ白色の物
盛也上半年ハ羽の俗虫と裸虫とハ生ハ介甲
の俗虫ハ蚩ハ介甲下半年ハ介甲の俗虫裸虫ハ
能育毛の俗虫ハ耗上半年ハ苦物其物盛に
辛物蚩ハ下下半年ハ辛物其物盛に酸物蚩

初氣 太陽寒水 去年の十二月の中
の二月の中まよくと主は當年

此間寒にゆく初ハ雪霜降く春の陽氣のハ
かど去らハ雪霜降く春の陽氣のハ
惟ハ此間寒にゆく初ハ雪霜降く春の陽氣のハ

間ハ寒風烈く吹く二月末に至ると温氣とこ
る人身ハ腰尻痛手足疼て伸屈ハ病やと

一氣 厥陰風木 二月の中より四月
の中まよくと主は當年

此時間ハ風吹温ハ春陽の氣正ハ行
き川木ハ栄生ハ人氣ハ和ハて病と
若病ハ淋病眼病風症上熱ハ患保也

三氣 司天少陰君火 四月の中より六月の
中まよくと主は當年

此時ハ炎熱甚ハ行ハ金ハ石ハ燥ハ

一。万物蕃育盛に生し。間に持たざる寒氣
のつこく風吹人身も風熱の病のつこして寒熱往
來し。欬喘心痛氣上眼赤しと患ふ也

四氣太陰濕土 六月の中より八月
中まよくとつりこころ也

此時に濕熱盛にこく。厚暑至雨大にふり
降。寒熱たひひに行き。人身も濕熱と病て
寒熱往來。噎乾血濕。疥黃疸と患ふ也

五氣少陽相火 八月の中より十月
の中まよくとつりこころ也

此時秋冬の季と雖。炎暑の盛に行き。れ
万物反り長し。人身氣康らうらりと。雖火熱
の病と患。瘟疫とこころし。いり

六氣在泉陽明燥金 十月の中より
月の中まよくとつりこころ也

此時に燥氣専ら行き。れ。冷寒さひひ。然と
十月十一月の比。間に熱化。殘行する。冷寒盛に
行。此時ハ冷氣人の肌。に透。天氣さびしく。霧
のけく。發人身も。熱の症。皮膚の病。上腫。上
より。血溢。腸少腹の病。又中寒。等と患ふ也

▲丑未年 太陰濕土司天太陽寒水在泉也○

此年上半年ハ湿下半年ハ寒と。天氣昏蔽
く白湿氣四方に起雲南方に奔じりて寒
雨ふりく至が物とそく。立秋の後に寒く。
冬寒雪盛に氷雹降上半年ハ黄色なる物
事物湿のほ物ハ盛に玄物賊物ハ状。上半
年ハ玄物賊物盛に丹色の物苦物成ト上
半年ハ裸虫ハ靜に羽のほ虫ハ成と下半年
ハ鱗のほ虫ハ育羽のほ虫ハ耗裸虫ハ云月
人身上半年ハ風显熱の病のりて張
滿腫氣等と患下半年ハ湿熱火症冷寒の病
ありと。手足冷或ハ急引又ハ痞等の疾と
致と

初氣 厥陰風木

去年の十二月の中より
當年の二月の中まで也

此時春陽の氣至て濕に風吹出たりと生
ト榮雨時節に後ま人の氣も舒や也病
ハ風病血症筋の疾と患

二氣 少陰君火

二月の中より四月
の中まで也

此時大火熱正く行りん力物より化れ人氣和と

雖温疫大に行いんえきおほきにやうくもしくわ利

三二氣司天太陰湿土

四月の中より六月の中までとつらる也

此時湿氣行このときしついきやうくれ雨降雷電あめあらしかみなりし地氣蒸ちいきじやうたてこへ身湿病みんじつびやうのつこく身重みんじゆうく腫腹脹しゆはくちやうとと患

四氣

少陽相火

六月の中より八月の中までとつらる也

此時蒸このときじやうまてとて大に熱おほきにあつし木の石きのいしにも烟出湿氣けむりいしついき少すくく秋の季あきに入いれるとし冷氣ひやうき運とせし時ときるくもくして雨降人身あめあらしみんじんも熱火あつひの病びやうわつこく血症瘰腫脹れいしゆうちゆうちやう動物どうぶつの患わざと致いたす

五氣陽明燥金

八月の中より十月の中までとつらる也

此時冷氣このときひやうきさびくく人の肌ひとのかわに透露とせうろ霜相蚤降しもあひまひり形かたち木黄きのわうくく落おちく人身みんじんにも燥症皮膚瘡せうしやうひふそうの病有

六氣在泉太陽寒水

十月の中より十二月の中までとつらる也

此時寒氣大このときさむいきおほに行いくも温陽ぬるやうの化くわ少すくく霜雪しもゆき厚降あつあらし水堅氷みづかたこほり人身みんじんも寒病さむびやうわつこく筋骨きんこつすまし腰腫痛こしちゆういたしと患

▲寅申年少陽相火司天厥陰風木在泉也

此年上半年このこうねんハ大おほに熱あつして火ひの流ながり如ごと下半年

ハ風大に吹汝飛り木偃涼雨並行する上半年ハ
丹色の物若物羽の浮虫ハ盛に白色の物辛物介
甲の浮虫ハ少し下半年ハ蒼色の物酸物毛の浮虫
ハ盛に黄色なる物茸物湿の浮物少く保虫ハ耗弱
の浮虫ハ育難し此年入身ハ熱病風症腫物泄瀉腹
脹瘧疾頓死者の利

初氣 少陰君火 去年の十二月の中より當年
の二月の中までとつらさるる

此時大に温にり木蚕采殘寒し早去入身に時
變温病起上下の血目赤頭痛火の初病重勿
の患の利

一氣 太陰濕土 二月の中より四月
の中までとつらさるる

此時に湿熱離し雲北方に濶こと風有ども湿
乾として雨零と雖とし時節と行にとも入氣
康さるる病ハ上熱咳は逆頭痛濕瘡等と患

三氣 司天少陽相火 四月の中より六月
の中までとつらさるる

此時に甚く大暑熱行すこと雨降と河乾出木
干乾さ枯く湿氣晚く行つら入身熱病瘰
耳聾眼病咳衄渴血症の病の利

四の氣 陽明燥金

六月の中より八月の中まことつらさうなり

此時雨湿行ゆれども乾やましく秋の氣盛行
霧露のけく冷なりと雖ども人氣ハ和柔ら
病ハ腫脹の症あり

五の氣 太陽寒水

八月の中より十月の中まことつらさうなり

此時に寒氣早來剛木も金凋雨降やと人
身も寒氣に振るる易傷易故に養生人ハ
此時の寒氣と防ぐ

六の氣 在泉風木

十月の中より十二月中まことつらさうなり

此時に寒風烈く吹霜霧いつく中木反て生ト
人身も風寒氣と得く頭痛咳泄瀉眼疾等有

▲卯酉年 陽明燥金 司天 少陰君火 在泉也

此年上半年ハ燥く涼に下半年ハ温に冬も
水氷ららる也上半年ハ白色の物辛物介甲の
係虫ハ盛に蒼物酸物毛の係虫ハ少下半年
ハ丹色の物苦物猪の係虫ハ盛に白色の物辛
物介甲の係虫ハ少上半年ハ涼燥
より病と致下半年ハ風温より病と致總して

此年の病ハ卒暴也

初氣 太陰濕土

去年の十二月の中より
當年の二月の中までとつて

此時に湿化行ふと曇く清と雨降風こころ
人身も内熱濕症と病腫氣熱脹泄瀉等と患

二氣 少陽相火

二月の中より四月
の中までとつて

此時大に温熱して飛物生じ宋人の氣舒
るんと雖ども瘟疫大に起る有る人暴
に死とら者あり

此時夏と雖ども冷に燥氣行くと後反て

雨澤人身も寒熱の病瘧疾等あり

四氣 太陽寒水

六月の中より八月の
中までとつて

此時に寒して雨降寒濕は物損保る
人身も瘧疾熱症腫物心痛暴病等と病

五氣 厥陰風木

八月の中より十月
の中までとつて

此時に冷風吹まると交る温は物損保る
如に宋人氣和病ハ風症あり

六氣 少陰君火

十月の中より十二月
の中までとつて

此時冬の季と雖も温い。虫も見れ
水と氷とど人氣し康なり。若ハ温病起し有

▲辰戌年 太陽寒水司天 太陰湿土在泉也。

此年上半年ハ肅く寒澤はとよこし雨さく

して暴雨わろく。雷鳴下半年ハ雲北方に

朝濕つよく。物湿係上半年ハ玄色ノ物鹹物

鱗ハ居虫ハ盛ハ黃物其物倮虫ハ蚩下

半年ハ黃物其物倮虫ハ盛ハ玄物鹹物蚩

く鱗ハ居虫ハ純此年人身

に寒湿の病わろく。上半年ハ寒病下半年

ハ湿病也

初氣 少陽相火 去年の十二月の中り

此時大に温い。川木蠶菜人身発熱腫

痛瘻腐温熱病起多腫物の患わろ

一氣 陽明燥金 二月の中り四月の中り

此時春夏と雖も大に涼く温氣発し温

と冷と時りと行りれ秋の如く川木の

人身も冷病腹脹と病

三氣司天太陽寒水 四月の中より六月の中
此時大に寒氣行りしれ雨降暑氣少く雷
なり水電うつり人身も寒氣と得て交て
鬱熱し瘰癧腫物等と病此時元氣不足
の人ハ心養生と云ふ

四氣厥陰風木 六月の中より八月の中
此時に風吹て物と損ひ雨降カ物生れ人
身も風濕の病うつりしれ肌肉手足痿痺赤
白痢病と患ふ

五氣少陰君火 八月の中より十月の中
此時秋冬の季と雖とし温いして草木長じ
人氣も舒也と雖とし熱病葉流

六氣在泉太陰湿土 十一月の中より十二月の中
此時湿に多く行りし天曇り清と雨ふげく
降て寒風至人身も寒温ハ凄て病此より
生じ

巳亥年 厥陰風木司天少陽相火在泉也
○此年上半年ハ風吹下半年ハ大に熱し

冬と雖ども熱して水氷らると虫見ると人
身も上半年ハ風病上に起下半年ハ熱病
下に生じ上半年ハ倉色の物酸物毛のほ虫
盛し黄物茸物湿る物保虫ハ火し下半年
ハ丹物吾物羽のほ虫ハ盛れ白物辛物介甲の
ほ虫ハ少し

初氣陽明燥金

去年の十二月の中より
當年の二月の中まで

此時春にうつりて冷寒肅く霧露しげく
天清なり木ノハ燥く人氣し舒すして
冷病生じ右の脇の下ノ病あり

二氣太陽寒水

二月の中より四月の
中まで

此時春夏の季と雖ども寒残り雪相降中
木の枝葉枯然とも根枯ると寒雨行つれく
後温陽見れ物生じ人身し外にハ寒邪と
犯内にハ暑熱と病

三氣司天厥陰風木

四月の中より六月
の中まで

此時風大に吹熱し人身し風熱の病ありて
眼疾泣出眩頭痛等と患はるなり

四の氣 少陰君火

六月の中より八月の中

此時濕熱にまよとせにりく溽暑まよとせにりし山澤湯氣まよとせにりをくら

暴雨まよとせにりふも人身まよとせにりに濕熱と病まよとせにりく黃疸腫氣まよとせにりを患

五の氣 太陰濕土

八月の中より十月の中

此時燥と濕と更行まよとせにりり天曇まよとせにりく清と雲北

に趨まよとせにりると冷雨行まよとせにりり人身まよとせにりに冷温の病まよとせにりのつと

六の氣 在泉少陽相火

十月の中より十二月の中

此時大に熱まよとせにりと水まよとせにりと氷まよとせにりらと虫まよとせにりと見まよとせにります万物

發生まよとせにりして州木まよとせにりも生まよとせにりじ人氣まよとせにりも舒まよとせにりやるとり

と雖まよとせにりとし温疫厲起まよとせにりして有

○十干にして年の氣と見事

▲甲の年 土運太過也此年と總まよとせにりて敦阜と

号まよとせにり○甲子甲寅ノ四年ハ司天まよとせにりが少陰少陽の

君火相火にまよとせにりく火生土と相生する故に順化

の年とこと○甲辰の二年ハ司天太陽寒水

にまよとせにりく土尅水故に不和の年かつと雖とも

年の運と支と合まよとせにりし。在泉の五行まよとせにりの合する

が故に歲會まよとせにりとも同天符まよとせにりとし号まよとせにりして平和の

年ととも也。○此敦阜の年ハ湿盛にして
天曇大雨降泉涌河行潤澤に生れ
と生れ。鱗陸に見え物湿濡ふ万物能長
肌能充若年の変ハ暴に風雨至り地震山
岸崩ほし有穀ハ粳米稷糯米充し
果ハ枣李ハ中中也總して色黄
さる物草木よくして色玄物麻ハ中也酸
物ハ一蒼物酸物ハ中分也豆と粟とハ
中分也畜ハ牛盛に人亦多生犬と毛の
虫ハ中分也鱗の物ハ中分也甲辰の二
年ハ歳會同天符よく太過る事不及
る事と平らる年也号く備化の年といふ
年の氣順よく万物満湿の化平に行
ふを種糯稷粟草木物黄物肉厚物よく生
ど總して土地の化宜く調ととも此十
手といふ考ふ所の運ハ其年中と總て
係氣なり又前に十二支といふ考ふ所

の六の氣ハ其年中と六段にく細に
察さつ所ところ也故ゆゑに其年の十干とひく運と
定さだめ年中の大綱と考かん又其の十二支とひ
く六氣と定さだめ何月ハ如此このごとくと察
しく毎年の運氣と知也○凡甲丙戊庚
壬の年と太過たひといふなり太過たひに八年の氣進
盛さかにく春の氣も蚤はや去年の中ちより萌も育よくの
氣も蚤はや三月より萌も秋の氣も蚤はや六月より萌も
の氣も蚤はや九月より萌も也又し丁巳辛癸の
年と不及たひといふなり不及たひに八年の氣後で
進まむ春の氣も正月末に萌も夏なつの氣も四
月末に萌も秋の氣も七月末に萌も冬ふゆの
氣も十月末に萌も也又平和の年といふハ
四時の氣能調ととのふく其時節に進まむ後ごと風
雨も順したがひ万物も能調ととのふ年也總すべて年中
の平等調和ととのなりと知しぬ○下皆此例に
あらわる考かん見みべしなり

▲丙ひのの年 水運の太過也此年と總すべて流行はると

平みづる也

▲戊の年火運の大過あり此年と總て赫儀

と号○戊子寅の四年ハ司天少陰少陽の君

火相火行して司天と運と同氣故に天符と号

て順化の年とこと○戊辰の二年ハ司天太陽寒

水行して運と相尅するが故に天刑と号とく

和合せざると雖とし火運の太過と司天の水と

制ぶが故に及く火運平和の年とする也○此

赫儀の年ハ炎暑烈しく沸騰とて万物よく茂

栄秋冷の氣ハ時節に後遅し。若年の變ハ

時々ぬ大雨氷雹霜降と有とこと穀ハ麥

とく豆ハ中也稷糯ハ狀果ハ杏よく栗ハ中也

桃ハ狀と總として色赤物味苦物よく。色白

物味辛物ハ狀し。玄物鹹物ハ中也畜ハ馬盛

に羽のほ虫多介甲のほ虫と雞とハ狀とこと○

戊子寅の四年順化して天符とこと辰の二年

尤とし太過ありと不及なくと平みづる年

とこと号とく升明の年とする年の氣順和に

く暑熱盛と雖ども烈くも。万物く茂
つ。深く高く長と。麥杏色赤物味苦物よ
く生じて。總じて脈絡の物ハ宜とこと。絡脈
の物とハ絲瓜の戊午申寅の二年ハ天符順化と雖
ども七年の氣ハ中分也。辰の二年尤と平
和の年と知。猶下の壬の終に年の氣の數
惡上中下と詳に別考。會息
▲庚の年 金運の太過也此年と總て堅成と
号○庚 子寅の四年ハ司天が壯陰少陽の君火
相火の運と相尅とらるる故に天刑と号と

和合せと雖ども司天より運の太過と制
ふ故に金運の平氣と成也。子の二年ハ運と
在泉との五行同氣合すふが故に同天符と
号と彌猶以と平和の年とこと○庚辰
二年ハ司天が太陽寒水の運と小逆の年と
こと其故ハ金ハ水の母也母の金ハ運とたりて
下に居子の水ハ司天とありて上に居此母と
子と居所の上下が違はると以て逆とす。是と
ハ雖ども本相生故に小逆とす也。大逆の年に

ハわくど中分の年とと○此堅成の年に
ハ天地肅冷霧露冷颯行つれ木枯凋て
陽生し難く秋氣盛也若年の變ハ時と
ぬの炎熱あつとく金石も燥く如く蔓中も槁
とすは瓜如く有とと穀ハ稷よ糯米充と
しよし。麥ハ中也麻ハ中也と果ハ桃よ杏
ハ中也李子ハ中也とと總して色白物味辛物よ
く。色蒼物味酸物ハ中也とと丹物苦物ハ中也
畜ハ雞盛に介甲あ豚虫ハ多大と毛あ豚虫と
ハ中也とと庚午寅の四年ハ金運の太過と司
天の火より制は故に死く金運平和の年と
とと号て審平の年とつ年の氣順和はり
天地清冷さらと雖もも疾に枯し殺さと惟
秋風の吹落の化のはつも然に物の生長ハ過て
常の如にハわくどとと粳米糯米桃す生しと色白
物味辛物よととと○庚辰の二年ハ順和さ
つと雖もも右四年はと移はハわくど

▲壬の年木運の太過也此年と總く發生と

野の壬子申の四年ハ司天が坤陰坎陽の君
火相火にく小逆の年とし子細の位違
たゆ故也然とし本相生みれば大逆よハ
のく中分の年とし謂此発生
の年ハ天地の氣温に開りく万物舒やか
に能生し能榮草木茂しとこと春氣の盛
かは年かり人の氣し亦舒に生化と若年
の變ハ時らぬ秋風吹冷に水枯周根ぬ
け枝折葉落くとじと有とと穀ハ麻

く類糲ハ中分也稷ハ秋とこと粟ハ木チよ
く桃ハ中也東ハ秋也とこと總として色蒼物味
酸物より色黃物味甘物ハ秋とこと色白物味
辛物ハ中也畜ハ犬ハ盛に毛の浮虫ハ多牛と
僕虫とハ秋しと秋とこと壬辰の二
年ハ司天が太陽寒水にく運と相生す
故に順化の年とこと中分の年也壬申の
二年ハ小逆と雖とし在泉の五行と合する
故く同天符と木運平和の年とこと野

く敷和とりふ也年氣宣平けりく温に和
ひ。万物より生じ。木榮麻李より生じ
蒼物酸物より生じ。總して中に核の堅の
浮物より生じ。右の甲丙戊庚壬の丑各子寅
辰の六年けり。主深故に五六合して三十年
也。此三十年と五運の太過とく陽年と事。
凡此三十年ハ天地の氣進充と甚しと事。
然とし或ハ其年司天より制運時ハ平和に
調運。庚子續ハ金の平氣と成。戊辰ハ火の
平氣と成也。平氣の年ハ一歳の寒熱温冷
風雨燥湿し調つ。万物の生長化收藏し宜く
和と一平等に行事。過不及とく上々の善と
し也。極又年に勝復とりあり。土湿が尤の
勝ハ木風の仕復あり。木風が尤と勝ハ金燥の
仕復あり。金燥が尤と勝ハ火熱の仕復あり。
火熱が尤と勝ハ水寒の仕復あり。水寒が尤と
勝ハ土湿の仕復あり。此と勝復とり。心元つと勝
平も後にハ仕復の復氣あり。平氣の年に

此勝復の事なりと知べべし。大抵彼元
て勝氣ハ上半年にのつ。仕復の復氣ハ下
半年にのつ。其故に立敷し上半年に能
生長しして下半年の風雨等にく損
傷し有ハ此皆復の氣の害する所なり。又丙
辰ハ水の平氣と成申辰ハ土の平氣と成戌
午申ハ火の平氣と成壬申辰ハ木の平氣と成
ハ此或運と司天との五行が合し。或運と在
泉との五行が合する故に平氣と成との小

雖どし右の戊辰庚子申辰の平氣はどいいか
ど中分の年とことの又甲子申辰辰ハ順化の
年とことの然とし此惟司天と運との五行相
生するといふくの故に順化と号す耳にく
平氣にハのつと甲子申辰ハ其終土運の太過
とし。壬辰ハ其終木運の太過とことの此六年
し亦中分の年也。又丙子申辰辰ハ俱に不和の
年とことの庚辰壬子申辰ハ俱に小逆の年とことの此
八年ハ太過にく然とし。酉年とことの然ハ

右の陽年大過三二十年の中庚子寅戊辰の六
年ハ上ノ平氣の吉年也丙辰甲寅戊辰子寅壬寅
寅寅の十年ハ中余の年也甲子寅寅壬寅戌辰の六年
ハ中余の下ノ年也丙辰寅寅戌辰壬寅の八年
ハ極下の凶年也

▲己の年金運の不及也此年と總く從革
と号すの己巳ハ司天が厥陰風木にく運と
相尅すも故に不和の年ととの己酉ハ司天
が陽明燥金にく運と同氣合とも故に

己天符の年ととの己未ハ司天が太陰濕土に
て運と相生がらる故に順化の年ととの此從革
の年ハ秋金の氣ハ後春生夏火の氣ハ進くカ物
菜盛に温風至ル此年ハ金の氣弱が故に火の氣
勝く炎熱盛に燥が如らレバ必く水の仕復あり
く時ありぬ氷雪霜雹行く冬の氣發まて
大寒と致す○凡そ此年火勝金負時ハ金氣の爵
發とつつとあらず其金爵の發とらんとてハ必ず
夜露盛に零中木の間に風吹鳴とハ金爵の發

すべし也也己に金爵の発とらや。八月の中秋
分後に大地清潔大に涼燥氣行ると霧厚
く草木乾凋土面霜鹵涼風万物と吹鳴の凡
此年ハ麻麥李杏よく一切苦物酸物脉絡の
物の類丹物蒼物一稷糯と桃と白物辛物穀
の堅物芒の浮物とハ少ととも馬犬毛の浮虫羽の
浮虫盛に雞介甲の浮虫ハ少ととも。然るも右の
水の仕復と金の爵発との行つ浮にたるとそ
稷糯桃白物辛物穀堅物雞介虫俱に化と得く
善くともわつと知ぬ。○し如ハ不和の年と
雖ごも其一歳の化ハ反く木運平氣の令と
成く。年温に和ひ万物宜やりに能生し。木
榮麻李蒼物酸物一切中に枝の堅の浮物皆
能生と充ととも勝復の半並氣もろととも
○し聊ハ天符の金運平氣の年ととも号
く審平とりの天地清冷なりと雖ごも妄に
枯し殺さとも惟秋風の吹落の化の浮のとも然と
も万物の生長ハ迫く常の如にわつと稷糯

桃よく生ず。白物辛物よくとこと。○乙未ハ順和
の六年つくと主どりて五六合せと三十年也此
と歳年とりつゝ凡不及にハ天地の氣後て弱く
其勝所の氣進負所の氣扶つて及と進なり。
金不及かんバ金氣後と火の熱氣と風木の
發生とが進火不及かんバ熱氣後と水の寒
氣と金の肅冷とが進水不及かんバ寒氣後
と土の湿氣と火の熱氣とが進土不及かんバ
湿氣後と風木の發生と水の寒氣とが進木
不及かんバ風氣後と金の肅冷と土の湿氣と
が進也總として不及の年にハ其年中の四時寒
熱温冷の氣も万物生長化收藏の氣も常
より千五日余後と進と知べし。又若其扶らる
る所のつとく平氣の年と成時ハ四時万物の
氣皆常の如從順に及と進りつと進りつと
也。○又不及の年にハ必勝復の争つと金不

左

五

及ありますと火くわ熱ねつ勝かち時ときハ水すい寒かんの仕し復へあらすも水すい不ふ
 及ありますと土ど湿しつ勝かち時ときハ風かぜ木きの仕し復へあらすも土ど不ふ
 及ありますと風かぜ木き勝かち時ときハ燥さう金きんの仕し復へあらすも木き不ふ
 及ありますと燥さう金きん勝かち時ときハ火くわ熱ねつの仕し復へあらすも火くわ
 不ふ及ありますと水すい寒かん勝かち時ときハ土ど湿しつの仕し復へあらすも土ど
 此こと勝かち復へといふならば彼か平へい氣きの年ねんにハ
 此こ勝かち復への争かぎふま變へん氣きなり。又また不ふ及ありますの年ねんにハ
 爵しやく発はつといふならば年ねんの氣き不ふ及ありますとく
 勝かち者ものに尅くせらるもとく。爵しやく一いつ極ごく時ときハ反へんとく起おこ出しゅ
 是このならば此こと爵しやく発はつといふならば大だい低てい勝かち氣き
 上じやう半はん年ねんにあらば仕し復へと爵しやく発はつといふならば下げ半はん年ねん
 にあらば此こ故ゆゑに五ご穀こく五ご果くわ五ご畜しゆく五ご虫ちゆうの類るい
 上じやう半はん年ねんに善ぜん物ぶつ反へんとく下げ半はん年ねんにあらば損そんは
 損そんはあらば或あるハ上じやう半はん年ねんに宜よろとくさらるも者もの反へんとく
 下げ半はん年ねんにあらば育よく扶たすとく有あ者ものハ彼かの
 復へ氣きと爵しやく発はつといふならば得えが故ゆゑなり。是このならば年ねんの運うん
 氣きと考かんふ者ものハ必かな年ねんの大たい過か不ふ及ありますと勝かち復へ爵しやく発はつ
 と四し時じ六りく氣き司し天てん在ざい泉せん等とうの化くわと見みとく一いつ歲さいの

寒熱風雨五穀の生育とらへるなり○下
皆此例にまづるなり考見候べし

△下の年

木運の不及也此年と總て委和

と号す○丁卯ハ司天が厥陰風木にく運と同

氣合する故に天符の年ととも○丁酉ハ司天が

陽明燥金にく運と尅するが故に天刑と

年ととも○丁未ハ司天が太陰濕土にく運と

相尅するが故に不和の年ととも○此委和の年

ハ露露厚凄澆なり涼雨降風雲並興秋の氣

發行なりれ申木晚く榮く凋落と雖とし土の

化氣能くて万物なりよく秀いでて肉なりり能充く凡

此年ハ木弱金勝く冷風肅殺つりけれハ必

炎熱沸騰なり雷霆なり火の吐復なりつり此時なり

羽なりの浮出盛なりに毒蠅なり雉多なり○凡此年なり金勝木負

時ハ木氣の鬱発と云なりしつり其木なり鬱なりり発なりせ

んとなりくハ必なりと風なりしかなりこなりに申なり億なり柔申なりの葉

呈陰樹木の間に自なり風なり声なりの浮なりハ木なり鬱なりの発なりせん

とくなりの形也なり已なりに木なり鬱なりの発なりするや埃なりふなりら雲

こころの大風吹く屋と破木と折或埃空に蔽天
昏雲横こころれどし反く雨降ど凡此年ハ木に
變しし有者也木壽の発しるに八定一持ハ
ガ一と知べし。凡此年ハ穂播種東挑よく一
畑の辛物茸物肉厚物濡の浮物殼の堅物白物黄
の浮物皆し。蒼物酸物中に核の堅の浮物と
麻李ハ狀どし。雞牛保虫介甲の浮虫盛に人身
し亦しとこと犬毛の浮虫ハ狀どし然れどし有の
火の仕儀と木の壽発との行しるに至く麻李

蒼物酸核堅物犬毛の浮虫俱に化と得く善と
と有と知べし。凡此年の年ハ黄の浮物肉厚
物茸物にハ虫しとさ易の丁ハ天符にしく不
運平和の年とこと異しく敷和の年とこと温に
和るり物と生し栄山木茂つと春氣平に風
調どらと烈くど麻李一切中に核の浮物茸
物酸物と生し犬と毛の浮虫と盛也とこと
心と勝復壽発等の變氣しかし。丁酉
ハ天刑の年と雖どし一歳の化ハ怒く金運

平氣の令と成り、天地清冷なりと雖も、
に枯し殺さずと惟秋風の吹落の化の爲の然
とし、飛物の生長ハ遑々常の如し、非し、
と抛と能生ト、白物辛物、丁、
年と雖も、一切の化ハ及く、土運平氣の令と
かつとく、濕化平に行われ、
取物、黃物、肉、厚物、
△己の年、土運の不及也、此年と總く、
駢ハ司天ハ厥陰風木に、
故に天刑の年と、
に、
金ハ上に在り、故に小逆の年と、
相生故大逆の年、
濕土に、
と、
物、
時節と、
つ、
此年ハ、
四足の物損じて多し

平氣の令と成り、天地清冷なりと雖も、
に枯し殺さずと惟秋風の吹落の化の爲の然
とし、飛物の生長ハ遑々常の如し、非し、
と抛と能生ト、白物辛物、丁、
年と雖も、一切の化ハ及く、土運平氣の令と
かつとく、濕化平に行われ、
取物、黃物、肉、厚物、
△己の年、土運の不及也、此年と總く、
駢ハ司天ハ厥陰風木に、
故に天刑の年と、
に、
金ハ上に在り、故に小逆の年と、
相生故大逆の年、
濕土に、
と、
物、
時節と、
つ、
此年ハ、
四足の物損じて多し

じ若此年土弱く木勝く風吹起く万物折
 くぐく時ハ心金の仕復のうして冷氣行しれ中
 木乾枯凋落しつゝの凡此年木勝土負時
 ハ土氣の鬱発どふしつゝ其土鬱の発せん
 とくハ心と雲天山に横しつゝ浮蟄多生下はハ
 土鬱の発しつゝ兆するに土鬱の発するや
 雲北に奔ること輒震はよく巖谷の間震動し
 六七月の間に雷つよく山澤は黄黒たも埃塵
 々々しく眩と蔽其う嵐とさうり山谷の間に風
 雨つよくして山岸崩れ洪水流行て世皇
 のまきところのく後に雨がとよく時に應ど
 此より万物始く能生長し化まれ成凡此土
 鬱の発するハ六七八月の間也の凡此年ハ
 麻豆李栗よく一切濡るは物核の堅るは物
 鹹物酸物蒼物黒物ハ皆く稷穂束肉厚物
 其物黄物ハ皆灰しとこと犬豕毛のほ虫鱗
 のふ虫盛に牛と裸虫とハ灰し人身し亦
 減とこと然とし右の木氣の仕復と二の鬱

癸の行はとに到く獲稷束二肉厚物耳物黃
物牛俛虫人身も化を得く善し有る知へし
○己亥ハ天刑の年と雖も一歳の化ハ交て
木運平氣の令と成く温に和より物よく
生じ穀米木茂つと春氣平に風調よりて
烈くとも麻李一切核の堅の浮物倉物酸物
よく生じ犬と毛の浮出と盛也とこと心と
し齒癸勝復等の変氣しなり ○己酉ハ小
遊の年也然とし本相生故先ハ中貯貯の年

とこと○己未ハ天符のしく土運平氣の
年とこと号く備化の年の氣順の
く万物満湿の化平の終り○總じて土
地の化宜く調はとこと獲稷束二耳物黃物
肉厚物よりとこと

▲辛の年 水運の不及也此年と總て渾
流と号○辛 紀ハ司天ク厥陰風木のしく
運と相生よりと雖とし母の水ハ下に在り
の木ハ上に在故に小遊の年とこと然とし此

本相生故に大逆のハのくど酉の辛卯酉ハ司天
 が陽明燥金のく上下相生順か辰が故に
 順化の年とこの辛未ハ司天が太陰湿土在泉
 が太陽寒水也其運と在泉との五行相合す
 とびハ同歲會とと然とし上司天と以てと
 れハ此一歳ハ反く土運平氣の令と成宮正宮
 者是のり然則此一歳上半年ハ土運平氣の
 令とと下半年ハ水運平氣の令とこの此酒
 流の年ハ水寒の氣弱く土湿と火陽との二
 氣昌のく土ハ湿く水泉ハ咸少く温のく
 形木長く茂る物の實のつ能満この土勝て
 埃霾空に蔽く昏く驟雨降時ハ木氣衰ん
 仕復のつこく大風吹木拉摧ふと有此時
 に獸藏くく狐狸等變化狼田
 鳥と荒く黄色中味の穀と損ひ人と犯と
 凡此年土勝水負時ハ水氣の鬱発このつと
 めつ其水爵の発せんとくハ必と黒黄か
 浮雲氣或ハ曇或ハ清く麻の散が如るハ

水爵の発とへさ必也其水爵己に発る
や時々々と寒氣暴にいつら温氣去川
澤巖く炭地酒白氣霜雪降く炭木り
天氣くら曇昏くして清く水に種々の
亦交しと有也此爵発の行はるハ二月より
六月まごの間にわつこと○凡此年ハ麥
稷粟黍よく一切肉厚物苦物中物丹物黄物
ハ皆よく豆粟水氣の物鹹物黒物ハ皆
しと馬牛羽の物虫裸虫人身し俱ハ盛
氣麟の物虫ハ皆し然とし右の水氣の仕
復と土の爵発の行はるとにをくハ豆粟水氣
の物鹹物黒物氣麟の物虫皆化し得く喜
しと有と知はる○辛未ハ中分の年と
○辛未此年上半穀ハ其氣順はるが物
く満湿の化平に行はるれ總として土地の化
宜く調はる稷稷粟黍肉厚物下
半穀ハ水の手氣はるく静順の年と寒
氣平はるく雪霜はまると水く物

と養ヤウ豆トウ粟リウ鹹ケン物モノ黑クワク物モノ鱗リン魚イサとこととの辛シヤウ
の己亥卯未配ヘイ柳リウ六年ニシツの中ノに於オケハ丑未の二年ニシツと上ノ
の吉年キツネンとこと

▲癸スイの年ノ火カ運ウンの不及フイタク也ナリ此年コトノと總ソウく伏明フツメイ
と号ナヅケく○癸スイ未ミハ司シ天テンが太陰タイイン湿土シツツの行く運ウン
と相生ソウセイと雖スレドモと母ボの火カハ下カに在オケ子シの土ツハ上ノ
に在オケく子シと母ボと居所キョソの逆ギャクに行く故ユヘに小逆コギャク
の年ノとこと○癸スイ未ミハ司シ天テンが厥陰ケツイン風木フウボクの行く
運ウンと相生ソウセイ故ユヘに順化ジュンカの年ノとこと○又マタ在オケ泉センハ女陽メニョウ

相火ソウカの行く運ウンと同氣ドウキ相合ソウカウとこと○故ユヘに同歲ドウサイ
會カウと号ナヅケく平氣ヘイキの年ノとこと○癸スイ未ミハ司シ天テンが陽ヨウ
明燥メイソウ金キンの行く運ウンと相尅ソウキツとこと○故ユヘに不和フワの
年ノと雖スレドモと在オケ泉センが少陰ショウイン君火クニカの行く運ウンと
相合ソウカウ故ユヘ同歲ドウサイ會カウと号ナヅケく平氣ヘイキの年ノとこと○
凡ソレトモ此コトノ伏明フツメイの年ノハ寒サムイ冷ヒヤ拳行ケンカウとこと○れ○暑アツク熱ネツ
薄ウスく物生モノナとこと○雖スレドモと表ウラト堆ツキく物モノの實シヤク
と稚コく雪霜ユキシヨウ蚤降ソウカウ虫ムシと蚤藏ソウサウ氷雹ヒョウ降カウ若時ニシキ
々○と寒冽サムイ冽レツく慄オソけ○ハ○沉シム鬱ウツく暴雨ボウウ霖リン

霽降此火弱く水勝く土の仕復也の此年
水勝火負時ハ火氣の爵発とらゆしつわり其
火爵の発せんとしてハ必と燠の如しハ赤氣
空中に霧く甲し明くすと炎の如しハ大
暑行くと山澤燎く如く甲木し津と出と
蔓甲ハ焦枯天地の間蒸くと屋の棟より
烟さら地面白氣池水減風盛に吹雨湿時
霽に後と夜半の過ハ冷くも物りも火
に温く人と汗と出し地床播塵とせ
に燬死の者多しとと此火爵の発せんとして
ハ萃く特分とらに及く水凝山川氷雪のつと
南面の澤に霜氣とらハ其兆也危火爵の
発とらハ六七八月の間にあつと〇凡此年ハ
豆稗糯粟桃よく一切水氣のほ物鹹物辛
物黒物白物ハ皆よく冬杏脈絡のほ物糸
の類類苦物丹物ハ皆よく玳かい雞鱗のほ虫介甲
のほ虫ハ多く馬羽のほ虫ハ状よく然ととし右
の土の仕復と火の爵発の行くとらとに及く

麥杏脉絡の係苦物丹物馬羽の係虫皆化と
 得く善しと有と云るべし。癸の順化同歲
 會はく。火運平氣の年と此と号けし并
 明の年と暑熱衡して烈く。物
 蓄く長し。天氣明に曜と麥杏一切脉
 絡の係物絲の類赤物苦物馬羽の係虫皆よく
 生と。癸酉ハ陽明燥金の司天はく。不
 和の年と雖とし。此年火運不及はく。火
 運金と免きと有所のる司天燥金の助と得
 故に金運平氣の年と成内經に上商ハ正
高と同一ころハ是
 然とし在泉が少陰火のく。運と同氣
 故に同歲會と号けく。亦火運の平氣と
 然としハ上半年ハ金運平氣の年と
 下半年ハ火運平氣の年と云べし。然ハ
 此年上半年ハ清冷地とし。疾に枯し。殺さ
 こと。惟秋風の吹落の化の係の。然とし。カ
 物の生長ハ迫く。常の如にハ。稷糯
 桃のく生し。辛物白物とこと。下半年

ハ右の癸の己亥の年の化と同す也。の癸
丑ハ小逆の年と雖とし本相生なるが故に
大逆にハあらず中分の年と知へる也。總て
て上より生らるハ道の順なり下より生
らるハ逆道なり。母下に在く子上に居
臣上に在く君下に居ハ皆逆なり。故に主
客の組合にもし君火の上ハ相火の重なり
逆とて生らる

○年中の雨風善惡とら事

十一月冬至の比に雨風の甚き天変ありハ
其國の君に出宗あり。二月春分の比に雨風
の甚き天変ありハ大臣に出宗あり。七月立
秋の比に雨風の甚き天変ありハ諸臣下
に出宗あり。八月秋分の比に雨風の甚き天
變ありハ武將に出宗あり。五月夏至の比
に雨風の甚き天變ありハ民百姓に出宗
あり。十一月の中冬至より正月の節立春
の前後まづハ正北より吹風ハ万物の生長

と致と也。正南より吹風ハ人身万物と損
しと致と也。○正月の節立春より二月の
中春分の前後まよくハ東北より吹風ハ
万物の生長と致と也。西南より吹風ハ人
物と損しと致と也。○二月の中春分より
四月の節立夏の前後まよくハ正東より
吹風ハ万物の生長と致となり。正西より
吹風ハ万物と損しと也。○四月の
節立夏より五月の中夏至の前後まよくハ東
南より吹風ハ万物の生長と致と也。西北よ
り吹風ハ人物と損しと也。○五月の
中夏至より七月の節立秋の前後まよくハ
正南より吹風ハ万物の生長と致と也。正北
より吹風ハ人物と損しと也。○七月の
節立秋より八月の中秋分の前後まよくハ
西南より吹風ハ万物の生長と致と也。東北
より吹風ハ人物と損しと也。○八月の
中秋分より十月の節立冬の前後まよくハ

正西より吹風ハ万物の生長と致と也。正東より吹風ハ万物と損しと致と也。十月の節立冬より十一月の中冬至前後まなくハ西北より吹風ハ万物の生長と致と也。東南より吹風ハ万物と損しと致と也。以上の候ハ大槩各四十五六日程づく。一年と八段に分て考ふと也。○秋又十月の中の日。正月節の日。二月中の日。四月節の日。五月中の日。七月節の日。八月中の日。十月節の日。此月の前後二日の間に節風雨のれハ其後四十五六日の間天地の氣調てと。飛物養しく衆人民安全に。病、吹まかり。若右の日より五六日し前に風雨のれハ其後四十五六日の間ハ雨志びく降也。若又右の日より五六日し後に風雨のれハ其後四十五六日の間ハ旱と候と。かりの秋又南風ハ熱なり。北風ハ寒なり。く湿なり。西風ハ燥なり。く涼なり。東風ハ温なり。

南西の間より吹風ハ湿地也。南風ハ物と長と。東風ハ物と生と。西風ハ物の生氣と扱へ。北風ハ物の生氣と扱へ。又南東の風とハ雨降。南西の間より吹風くし。雨降。北西の風くハ雨清なり。或ハ雨の時分に西風くく。一とあり。雨はよくと有とし。西風されば頓く清者也。然ともし。雨風ハ其土地の高下と陰陽の向背と依りて雲の起発のころり候ひし。亦變じたり。

○正月朔日の風雨を以年中と占事

正月朔日に雨りくくして西北の方より大風吹ハ其年中に人多死ともあつ。○正月朔日の平且に北より大風吹ハ其春が民多死ともあつ。○正月朔日平且に大風なるとく。惟北風吹ハ其春が民病と多あつ。大槩十人の中三人ハ病とす。○正月朔日の日中に惟北風はまハ。大凡に其夏が民多死ともあつ。其夏が民多死ともあつ。其夏が民多死ともあつ。

河りの○正月朔日の夕暮に北風あきバ其
秋万民多死とらふこと河りの○正月朔日終
北風あきバ其年中に大病葉流く万
民多く死するこし河り大槩十人の中六
人ハ死と○正月朔日に南風あきバ其年
旱すもりり○正月朔日西風あきハ其
年國に殃い戦すこし河り人多死と○
正月朔日に屋と破歩石と揚程の大風東
より吹ハ其年國に大殃河りの○正月朔日
に東南より風吹ハ其春万民の死亡と河り
○正月朔日天氣清く温に風吹されバ其年
五穀よくして糶し賤く万民の安全に
く病と○正月朔日天曇く寒風吹其年
五穀のよくして糶し賤く万民の病多
しとこと○二月朔の日に風吹しバ人民
に心腹の病多し○三月戌の日に温くされ
ハ人民に寒熱の病多し○四月己の日に暑
かざれば人民熱中と病し多し○十月申

の目に寒かりしをいふ人民暴に死する事

一とこと

○旱魃に雨と祈法の事

或人の家傳に久く旱しして雨なまじ時ハ大
深淵の岸に於て竹とひく高く棚と構へ
四方に幣帛と立棚の上に燕數十と並て
法華經千巻と讀誦し雨と祈り
終に其燕と盡く淵に沈れば必と大雨降と
傳ぬ按とるに時珍が説に龍神燕とまじ故

に燕と食し人ハ必と川と渡べしと龍神
に犯ぼく事ゆつこと然とまハ右の雨と祈に
燕と用く龍神と祭し其義ありとこと

○酉日の風之事

世俗に酉の日風ゆきハ大風となりと接
とるに酉ハ西方金の位なり金ハ風木に勝
者なり此日ハ風吹まじり者なるに若風
のふ時ハ金弱く木勝及く巳に勝者と侮
の勢ハ猛グ故に大風となりると恐ゆつて

の發其正説と知ると雖とて管見に依りて
てく記と者なり

○二百十日二百廿日放生會の風之事

二百十日二百廿日八正月の節立春の初日よ
つて數くつふ也放生會ハ八月十五日岩清水
の番宮の御祭日也世俗の云々
二百十日廿日放生會に風吹とて按とるに
二百十日廿日放生會の比ハ秋の最中なり
總して秋風とて秋ハ風の吹時節なり

然し二百十日の比ハ早稻の花盛とて二百
廿日ハ中稻の花盛とて放生會ハ晚稻の
花盛とて故に若此時節に大風を吹せば
稻と損じと必なり故に邦民此比に風の
吹とて恐く云々
に限る風の吹はとほと又此日の外の
風ハ穀と損じととつふよし必と總して
二百十日廿日の比と放生會の比とにハ秋風
吹やとて然し此比の風ハ穀と損じと

知はべし。必しも此日に限る風吹くにも
定らざり。此日の外ハ風吹くことのみならず他
此日の外の風ハ稻に中とこりふまじも此
總して七月中旬より八月中旬頃迄の
間ハ秋風吹くこと。此時の風ハ穀の爲に
宜くさる也。世俗多ハ誤つて二百十日
日放生會の日に限る風吹くとけり。此
日と逃ぐハ風吹くことと覺しなり
の八十八夜名残之霜の事

八十八夜し正月の節の立春の初日より數
くりたり。大槩二月の中と四月の節との
間に有りたり。此時ハ主氣の少陰君火の
宣令と行ふ最中り。れハ春に殘存霜し。此
比より消うせく降らざらば故に世俗に八
十八夜の名残の霜とハリふらるべし。必し
も此夜に限る霜の降らばなり。と
の半夏生の事

五月の中より十一日目を半夏生とり。この

此半夏と云ふは茶中茶中生じて盛盛なりと世俗
に此日此日天天より毒降毒降故に此日此日に取取り茶物
と食食さるものと云云なりとせらる接接どもに
半夏半夏といふ茶茶にハ毒氣毒氣はまじくして
生姜汁生姜汁に浸浸して其毒其毒と削削して製製る物物な
る。世俗世俗に半夏半夏の毒中毒中と誤誤く此日此日ハ毒
降降なりと云云なりとせらる事事なり人人欲欲或或人の
日日半夏半夏生生とハ半夏半夏正正と書書べし。一一夏夏ハ半
中正中正といふ意意なりとと實實に其理其理ハ然然也

○入梅の事 並に粟粟花花落落

入梅入梅の用法用法に諸説諸説ありと後後に記記すと然然と
も今今の曆曆に用用はハ時珍時珍が本草本草綱目綱目の説説
に従従く五月五月節節の後後の初初ての壬壬日日に入入く。
六月六月節節の後後の初初ての壬壬日日に終終とこと三三十
一日一日目目にしてのく水部綱目綱目時珍時珍曰曰入梅入梅病
の氣氣と受受まじハ病病と生生じ物物其其氣氣と受受れハ
儼儼と生生じと又又珍珍藏藏曰曰梅梅雨雨衣衣と名名とを
腐腐黒黒しと梅梅葉葉の煎煎汁汁に洗洗へハ其其の

齊黒脱は余水にくハ脱と云ハ梅雨ハ今
世俗にのみは少のりなり或ハ霰雨とし云
也ハ梅とハ其梅雨に入の日といふ梅雨終の
日と出梅といふなり又風俗記にハ梅の熟
と爲時に雨降と梅雨といふ又爾雅にハ梅黃
ばと落んとする比蒸たてく雨ぬふと梅雨
といふの四時纂要にハ四月節の後庚日に
へく五月節の後壬日に明と云荆楚歲時記
にハ五月節の後壬日に入く五月中の後庚
日にのくと云曆府通書にハ五月節の後
丙日に入く六月節の後末日にのくと云
又一説に栗花落とく五月の節の後二日
目に入く廿一日目に終と或ハ墜栗落と
し又ハ故とし書ハ五月の時分ハ栗の花さ
くんとらりと雖とし此比必と霖雨なりて
栗の花し雨にく落故に栗花落といふと此
説甚のやゆとらり右の本中綱目と云く
正説と云べし

○二季の彼岸の事

彼岸の義未其正説とあると先曆に記す所
ハ二月中の日八月中の日より三日目と彼岸
の事と若其間に没日のまじり四日目に記す
二七日の間より或人の云二八月の七日と神道
にハ天正と名け天竺にハ時正と号大唐に
彼岸といふと按ともは或釈書に彼岸ハ
日の中也と註せり此右の天竺一時止と号を
係に同意せり彼岸ハ大槩日夜の長短を

く晝夜平等の時なり夫晝ハ陽夜ハ陰也
陽の徳ハ生して善なり陰の徳ハ殺して
悪なり然ハ晝陽夜陰ハ善悪の兩道と
彼岸の時節ハ晝夜の陰陽平等に善
にも片寄りと悪にも片寄ぬ善悪不二の
時なり故に釈家に專此一日と貴て善
根と歡しり悪逆と避ししは者歎ふと此
が本説聞ゆゆしと事なり

○十支の春の事 並に天一天上

十か暮ハ甲申の取より入る。癸巳日のわきて
十日の間也。十か暮わく所の癸巳日と天一
天上とこと。世俗に十か暮を線に申ハ甲に
のぐつと巳ハ癸に入と覚ふも甲申に入て癸
巳にのくを以の故なり。其此を十か暮と云
所以の義ハ此十日の間ハ十支十二支の五
行が相尅しての故なり。甲申ハ木申ハ金此
金尅木也。しハ木酉ハ金亦金尅木也。丁ハ火亥
ハ水此水尅火也。戌ハ土子ハ水此土尅水也。庚ハ
金寅ハ木此金尅木也。辛ハ金卯ハ木亦金尅
木也。壬ハ水辰ハ土此土尅水也。癸ハ水巳ハ火
此水尅火也。其丙ハ火戌ハ土此火生土にして
相尅なり。こと巳ハ土丑ハ土此土支俛に土に
して相尅の涉込に及ばど。然ハ相尅するひ
きも。日ハ八月かむこと。相尅なり。さる丙
戌己丑の取し。總括く十日の間と。十か暮
と。其五行相尅の並ずる日故この間ハ
天氣し。清朗なり。して夕暮の如し。是

次く十方暮と号ふ者歟の或人問く曰世
俗に八專に八灸せどとつ十方暮に如何
と云ふや答く曰八專に灸せざるの義意
得がこし詳義ハ八專の條下に記し十方
暮に八世八灸と畏とと雖とし預按ず日
に十方暮ハ干支の五行相尅の日なりを
辭日にして善日にハ非ど然ハ一切は用く宜
うはまらき欲急事にあつとハ同くハ灸治
を十方暮の日と避よとくハあり其丙戌己丑
ハ十方暮の間日ととべー〇暦家に十方暮と
門出に忌とす

〇八專の事

並癸亥の灸治附八專に灸忌の事

八專ハ壬子日は入癸巳日ハあきして十二日の間
あり其中に間日四日ある故世俗ハ八專八日に
間日四日と覚るあり此と八專と云所以の義ハ
此間ハ干支の五行同氣とらふと專一ある
者実ハ八日ある故ハ八專と号く土水子水
甲寅木卯木巳火己火未庚申金

辛金酉金癸水亥水此皆干支五行同氣の
日あり其癸亥の水丑土丙火辰土戌土午火
壬水戌土卯木して干支の五行をくわくする
故に此四日と間日といふも也夫甲子の日よ
る。癸の亥の日まで六十日の間に干支の五行
そろそろくる日十二日あり戌土辰土の日己土
丑土の日戊土戌土の日丙火午火の日此は右の
八專八日と合せて十二日也然れども戊辰己丑
戊戌丙午の四日紛穢して一所は並ばざる
故に專日の中へ數入ると知べきなり○八專を
以て雨を占ふは其の入りたる初日は雨降ハ八
專中霖雨とす。其の初日は清天なりハ八專
中日和らぐハ專あきこの日雨降ハ八專復とす
又八專長霖雨とす此俗説と雖も義理か
きふの非むと。按とるは壬子の皆水也癸亥と
亦皆水也雨の水氣あり故に壬子癸亥の日よ
り降出くる雨久らるべし。水雨の官より
初まらかり。彼人身腰眼の灸治と十月癸亥の

日と擇て行者も。其の水旺の日と取て也。癸亥ハ干支皆水として然と曆家ノ納音と以て。毎日の五行と立よ。此日亦水ノ属ノ十月ハ水旺の月と。腰眼ハ下焦腎水と補の灸也。故ノ十月癸亥日水旺の月日と擇て此穴に灸とる也。總して腰眼の灸ハ十月の外他ノ月ノ致と。癸亥ノ行少を宜と。故ノ此穴に癸亥日に灸てハ癸亥と唱いへ。余の日ノ致とハ。惟腰眼ノ灸と云べし。○或人問。世俗ノ説ハ。專にハ灸と。若灸てハ。問曰。擇て致と。此提するも。否や。答て曰。專に灸て。此の義も。正説と。知と。夫ハ專ハ右ノ記と。如く。干支の五行同氣と。する日。ハ。其太過と。忘て。灸て。と。云。欬。余。此と。信て。彼。春ハ肝ノ俞。夏ハ心ノ俞。土用ハ脾胃ノ俞。秋ハ肺ノ俞。冬ハ腎ノ俞。小灸て。と。云。類多。一。此皆愚医ノ説。り。凡肝虚と補。多。て。肝俞と春。して。宜と。と。心虚と補。ふ。

灸てハ心俞と腎して宜しくべし。脾胃虚と
補う。灸てハ脾胃俞と土用して宜しくべし。
肺虚と補う。灸てハ肺俞と秋して宜
しくべし。腎虚と補う。灸てハ腎俞と冬して
宜しくべし。其故ハ春ハ木旺夏ハ火旺土用
ハ土旺秋ハ金旺冬ハ水旺の時也。此時々の旺
氣の助と借て灸とへし。假令腎ハ水藏也
腎虚と補に冬とハ冬ハ水旺の時と擇て腎
俞は致とへし。若又散實と泻とくは灸とハ
腎俞と土用よとべし。土用ハ土旺して水衰
ゆる時よれば也。四時は從て五藏の俞穴に灸
治てハ皆此例と考へ致とへし。然は今の愚
医ハ四季は從ぬ五藏五行の衰旺とし考へ
どして是安よ。總て肝の俞ハ春灸ては心
の俞ハ夏灸ては脾胃の俞ハ土用して灸ては
脾の俞ハ秋灸ては腎の俞ハ冬灸ては是覺
れハ甚やまなるあり。彼腰眼ハ灸て十月
癸亥の日水旺の時と擇て行ふと以て知べ

きあり近世世昭る医風薄く其学よ熟せど
して治療と施し偶中あれば已かく上手
なりと思て人と侮り高くと坐らざる者
多かり哉其意自辱あり専日
と宿曜経よ八專日は冥衆悉天上とる故
下界に聖衆の影響あり依て大唐
徳第四丁巳年以來一切の佛事よ此日を
忌むの曆家に同日の中辰午の日ハ保儀
よ當り吉日とす丑未の日ハ伐日に當り專
日よりして悪日とすと右の兩説ハ俱に陰陽家
の義にして取用る小足とす二十五年の
の土用の事

凡正月朔日より十二月大晦日まで一年ハ
三百五十四日三十七刻也此月の一年なり日ハ
一年ハ三百六十日あり天の一年ハ三百六十五日
二十五刻あり春夏秋冬ハ四時ハ此天の一年よ
り立るあり然ハ曆の正月朔日より十二月晦日
まで三百五十四日三十七刻よ四時の三百六十

五日二十五刻と合して見れば大なる不足あり故に二年
 の国月ありて其不足の日と足て行故に四時
 違ひて調へり着一度田を置ざれば春
 一月を夏より十一月を十二月より入三度田を置ざ
 れば春の季皆夏と成十二度田を置ざれば
 子の年が皆丑の年と成あり国月を以て
 不足と足はてして四時差を以て万事を調へ
 て行するあり扱三百六十五刻二十五刻の二年
 と四時を分て見よ九十一日三十一刻十五分宛
 あり然も此小してハ春木夏火秋金冬水
 て五行の中四行ありし土の一行足ざる故
 に土用ありて一年より五行全く具る也初土用
 ハ三六九十二月より其節より一時刻
 十二日二時餘を過て土用より入直より其入も刻
 限より又十八日三時餘の間と土用と俱土用
 の終ハ三夏立秋立冬之春の入刻の限あり
 とも古より曆よりハ三夏立秋立冬之春の節
 日よ記し來り初石の一年三百六十春

二十五刻と四は分ちて九十一日三十一刻十五分
宛の中より土用小十八日二十六刻十五分宛
ひききて見八七十二日五刻宛にあるあり初又
四土用の各十八日二十六刻十五分と合して
見此し亦七十二日五刻あること一年の
五行の日數の平等なる事ありの古より
曆よ土用の間日と付來り然れども土用は
間日あるの義その正説と知れ信し難しと
此陰陽家の法よりして用るは足ざるなり
○或人問世俗土用は多矣と云ふ本説ありや
否答て曰土用に多せざるの義医家の正説
に於て考あし此も亦前に辨する如く若脾
胃不足の症は脾の俞胃の俞等に灸して徳
るんぞありと反して土用は多し其土用の扶
ありて河ありん者然忽して鍼灸は日と忌時
と忌の義本医家の正説は非ず若急症は臨
て日と忌時と忌の用あり直に脱命せんとす
めト此皆陰陽家の臆説取ら足らんとす

若或ハ其命完とありて或ハ灸とてくぐら
る症ハ灸して中なる日時が自然たる灸忌
ところハ日時ハはあつれば此もの日の宗時
のいふありと云此皆愚者の意ありの土用ハ
四季子とあれども夏六月の土用と貴じ者ハ六
月ハ夏の火と秋の金との同くして火生
土生金の位との上一年の中央あれは分て
此土用と貴じ者あり故は六月の土用と
長夏と号するも夏の火なり生長しつる
土用と云意ありの物にして土用ハ凶日ハ
非下とせんし土と動しヤ木と切密の
事よハ絶て用べしとて

○毎日ハ塩満干ハ大法

○塩の満干ハ事並知死期
凡月の出入満鉄雨の降晴人の生死ハ皆
塩指引の時ハあつ然れば塩時と知でり
あつぬらあり

朔日 大塩朝の六四分と晩の六四分とし
満して昼の九四分とし夜も九四分とよ
千あり

二日 朝の六八分と晩の六八分とよ満て昼
の九八分に千あり

三日 中塩朝の五二分と晩の五二分とし
満て昼の八二分と夜の八二分とよ千あり

四日 朝の五二分と晩の五二分とし満て
昼の八二分に千あり

五日 昼の四と夜の四とよ満て昼の七と
夜の七とよ千あり

六日 昼の四四分と夜の四四分とよ満て夜
の七四分よ千あり

七日 小塩昼の四八分と夜の四八分とよ満
て昼の七八分と夜の七八分とよ千あり

八日 昼の九二分と夜の九二分とよ満て晩
の九二分よ千あり

九日 昼の九六分と夜の九六分とよ満朝の六

六分と晩の六六分とよ千あり

十日 長塩昼の八と夜の八とよ満て夜の
四よ千あり

十一日 昼の八四分よ満宵の五四分と朝の
四分よ千あり

十二日 昼の八八分と夜の八八分とよ満て宵
の五八分よ千あり

十三日 昼の七二分と夜の七二分とよ満夜の
四二分と朝の四二分とよ千あり

十四日 大塩昼の七六分と夜れ七六分とよ
満て夜れ四八分よ千あり

十五日 大塩晩の六と朝の六とよ満夜の九と
昼の九とよ千あり

十六日 晩の六四分と朝の六四分とよ満夜の九
よ千あり

十七日 晩の六八分と朝の六八分とよ満夜の九
八分とよ千あり

十八日 中塩宵の五二分と朝の五二分とよ満

て夜の八二分に千あり

十九日 雲月の五六分と朝の五六分とよ満夜の

八六分と昼の八六分とよ千あり

十九日 夜の四と昼の四とに満て夜の七に

千あり

十九日 夜の四四分と昼の四四分とよ満夜の

七四分と昼の七四分とよ千あり

十九日 小塩夜の四八分と昼の四八分とに満て

夜の七八分と千あり

十九日 小塩夜の九二分と昼の九二分とよ満

朝の六二分と晩の六二分とよ千あり

十九日 夜の九六分と昼の九六分とよ満て朝

の六六分と千あり

十九日 長塩夜の八と昼の八とよ満朝の五

と夜の五とよ千あり

十九日 夜の八四分と昼の八四分とよ満て

朝の五四分と千あり

十九日 夜の八八分と昼の八八分とよ満朝の

五八分と宵乃五八分とよ千なり
廿八日夜の七二分と昼れ七二分とよ満て
昼の四二分と千なり

廿九日大塩夜の七六分と昼の七六分とよ

満昼の四六分し夜四六分とよ千あり

晦日朝の六と晩の六とよ満昼れ九と夜

の九とよ千なり 此大の月の晦日なり

右ハ塩満千の大法也又知死期ハ毎日夜

の塩の指始め塩乃満つる塩乃引始め塩の

引詰にあり

○知死期ハ昼二度夜二度昼夜は四度な

る此が上旬中旬下旬の示同あり大方

人間の死とるハ其生一知死期は終者

なり然れども知死期とられよ生れあり此

ハ其母と子との虚実と其養生不養

生と又天氣乃寒熱とよ從てなり

又死とるし知死期よらつるあり此ハ

其病の輕重有餘不足と又其能食と

これ食でござるも又天氣の寒熱に從
てりら扁鵲が能食とる者ハ期は過食
でござる者ハ期は先つと云ハ此がら

ハ其知死期上旬中旬下旬の法

朔旦二日九日十日八昼の九夜ハ九朝ハ六晩ハ六がら
三日四日五日ハ昼ハ八夜の八朝ハ五宵ハ五がら
六日七日八日ハ昼の四夜の四明七晩ハ七がら

右上旬ハ分也

十早二早九是日八昼の九夜ハ九朝ハ五宵ハ五がら

十二日十四日十五日ハ明七晩の七昼ハ四夜の四がら

十六日十七日十八日ハ夜ハ九昼の九朝ハ六晩ハ六がら

右中旬の分也

廿日廿二日廿九日晦日ハ明七晩ハ七昼ハ四夜の四がら

廿二日廿四日廿五日ハ夜ハ九晝ハ九朝ハ六晩ハ六がら

廿六日廿七日廿八日ハ夜ハ八昼の八朝ハ五宵ハ五がら

右下旬ハ分也

右ハ知死期ハ云ハ皆毎日の塩ハ指引月の
出入の時ハ此猛時ハ潮のときハ惣ハ

て天地の間の諸水は往來する時刻あり
此塩の指引は天地の呼吸なり人間の息ハ
昼夜一萬三千五百息あり天地の息ハ昼夜
唯二息ありて昼指塩三時引塩三時
夜も指塩三時引塩三時也昼夜の間四度
の指引あり此と知死期と取らる月の出
入も雨の降晴も皆此より従らるあり

二十四氣七十二候の事

夫年中の氣の移りるるは大小の目あり先

春夏秋冬の四季ハ大なるうらりめなり初

又五日の宛より有り此と一候と云細い

十日五分五厘也此が一年に七十二度ありて七十二

候と云なり初又十五日の宛より有り此

と一氣と云細い算用より十五日廿一刻此が一年に

二十四度ありて二十四氣と云とありし十

二ヶ月の節と中となり此二十四氣ハ四季

よ次でのうらりめあり七十二候ハ其中の小

うらりめなり總して天地の寒熱風雨を

中木の花より実のる七鳥獸の翔走し其
外諸農の働き等すまでし皆此二十四氣
七十二候の度毎よ其氣より候いあれ
事りり况人同ハ猶以此度毎其氣一應
て行と知べし惣して春夏秋冬此四季
が一年よ入る有に非とらう一晝夜乃同
よし此分あり事り朝ハ一日ハ中れ春
とと故の人の氣さよやうして病を輕
し日中ハ夏とて故よ入る氣し長し
病安らうがら日暮ハ一日ハ中の秋とと故
よ入氣し衰へて病加ふる夜半ハ冬の一
中の冬ととと故よ入氣し氣して邪氣進
病甚しきなり此灵柩の順氣一日分爲
四時篇の法なり

○冬に至る事 並亥子の義

世よ正月三日と以賀者ハ此日の始月
れ始歳の始るなり然と一歳ハ中に
於ハ貴き事十一月冬に至る勝るあり

十一月冬至の夜、養子の時、一陽の氣
來復して此、其年中の人身亦物一
切の生氣の根とあり、故、古
祭中、八朔且冬至の御賀あり、今も
禪家、ハ冬至と賀事、他、殊り
又世は十月亥日毎、賀して俗、亥子と
号、按、十月ハ亥、十一月ハ子と
子ハ北方の一陽來復の氣、ハ子、
前、故、亥の月、卯の亥、日、亥の時、
祭、來、十一月、又、至、來、復、の、子、と、待、者、か
ハ、凡、一、歳、人、物、生、育、の、氣、ハ、又、至、夜、半、子
の時、より始、一月、の、生、育、ハ、昨、夜、の、九
子の時、より始、物、心、として、北、方、子、の、氣
程、貴、さ、い、あ、一、天、地、万、物、生、化、の、本、源、な
り、故、ハ、天、子、常、ハ、北、宮、ハ、位、ハ、南、面、
て、政、を、行、い、と、給、と、り、

○追加

或人問、曰、正徳四年甲午、八月、中旬、より九月

に至りて雲北方より起大曇て霖雨行りて湿化
盛りり其たるく晴時ハ甚熱して夏ハ
如く其曇て霖雨ある時ハ暴ニ寒して冬
如く此何や答て曰此年甲よりして土運
の太過くと土化ハ雨湿あり且四の氣ハ主客
俱ハ太陰湿の冷あり四の氣ハ六月の中ハ五
客氣ハ少陽相火よりして熱と五の氣ハ八月の中ハ
神ハ六の氣ハ客ハ陽明金主ハ太陽寒水なり
其間の中より其間北方より起大曇て霖雨あり
者ハ四の氣ハ主客合して太陰土の湿化と此ハ
甲土運太過の湿化と加且又秋湿とて八九
月の比ハ常ハ雨湿の行る時とて素問に
秋湿ハ傷るれば久咳嗽と患と云を此あり
然ハ秋湿の上ハ右の主客合して土の湿化と
午土運太過ハ湿と此四ハ湿氣と重合して
天曇て晴と惟ひことく霖雨下て
湿氣盛ありと致して其たましく晴時
ハ甚熱して夏の如きハ客ハ五と氣ハ少陽

相火の勢カ^いりり^り又其^い雲^りて霖^り雨^{あり}の時
ハ暴^いは^い冷^いて冬^のの如^き者^ハ六^のの氣^の客^ハ
金^の水^{として}主^ハ水^{として}寒^いて其^の金^水
今^の寒^のの氣^と合^{して}冬^のの氣^進故^{なり}
何^の疑^い有^{こと}の^の管^見如^此と雖^ど
其^の必^然と知^と後^の君^子此^が及^ハる^{こと}
改^り正^{さん}事^一改^請と云^雨

年中運氣指南終

和漢 運氣指南後編 右のまゝに記したる
全 巻を指す

正徳五乙未歲

正月吉日

京師小路通堀川東江八町

書林 中川茂兵衛藏板

下

